

土木学会/地盤工学委員会/土砂侵食と運搬堆積に関する学際研究小委員会  
平成24年度第1回会合 議事録(案)

日時: 3/22(金) 15:00-18:30

場所: 東大本郷工学部1号館2階のセミナー室C

参加者: 今泉、横川、知花、田島、佐々、成瀬(skype参加)、松島 (敬称略)

議題:

1. 名簿確認(資料1)  
成瀬委員の情報変更、知花委員の新規加入 (名簿をメールで送る:松島)
2. 来期の小委員会活動について(前田先生の資料2)
  - (2-1)小委員会名称について  
「学際」入れるかの議論があったが、名称が複雑になること、「土砂動態学」自体が新しい学際的な学問名称と定義する、ということで、提案通り  
**「土砂動態学小委員会」とすることとした。**
  - (2-2)委員の確認  
来年度の第3期スタートに合わせて、委員継続の意志を確認する。(松島)  
今年度は現在の委員構成で書籍を仕上げ、2年目(H26年度)に新委員を募集する。
  - (2-3)主な活動方針  
**平成25年度は、書籍の完成を最優先とする。**
    - ・土木学会や日本地球惑星科学連合の連合大会などの会議で、定期的に研究紹介を行う(各委員の研究についての情報交換)+ついでのミーティング(+懇親会)
    - ・どなたかから、まとまった詳しい話を聞きたい場合には、特別に小委員会ミーティングを企画する。
    - ・ワークショップ「ストラトダイナミクス」(資料3)を小委員会としてサポートする。
  - (2-4)小委員会ホームページについて  
土木学会サーバー内に作成可能か訊く。×なら松島の研究室のサーバーに設置。
  - (2-5)小委員会内での共同研究と外部資金応募の可能性
    - ・環境省がらみ
    - ・東日本大震災との関わり(放射能汚染拡散に及ぼす土砂動態の影響)  
→筑波大恩田先生のプロジェクトがある。(松島が当たってみる)
3. 書籍作成の進め方
  - [1] 書籍の進め方  
出席委員の総意によって、以下の方針が決定された。
    - ★8月末までに、各章の執筆を終える。
    - ★9月に第1回編集委員会を開催し、数章の原稿について他との調整を行う。
    - ★執筆内容の基準レベルは、「大学理系の1年生」とする。
    - ★数式は極力少なくする。

★書籍のフォーマットは

<http://www.amazon.co.jp/%E5%9C%B0%E7%90%83%E3%83%BB%E7%92%B0%E5%A2%83%E3%83%BB%E8%B3%87%E6%BA%90-%E5%9C%B0%E7%90%83%E3%81%A8%E4%BA%BA%E9%A1%9E%E3%81%AE%E5%85%B1%E7%94%9F%E3%82%92%E3%82%81%E3%81%96%E3%81%97%E3%81%A6-%E5%86%85%E7%94%B0-%E6%82%A6%E7%94%9F/dp/4320047036>

を参照。(25.6 x 18.2, B5 より大きく、A4 より小さい、double column)

MS-Word のテンプレートを松島が作成し、メールする。

★分量はこのフォーマットで、各章 10～15 ページ(最大 20 ページ)とする。

★用語等についての脚注は適宜入れる。余り多くなりすぎると、本のフォーマットの変更を考える。

■書籍内容についての各委員の材料の説明

1章: 本日は資料無し

2章:

3章以降に必要な最小限の「土質力学」の事項を含める。

松島の資料を参照。これに「ダイレタンス」「不飽和・サクシオン」は必要。

成瀬委員と松島で、個別に内容の打ち合わせを行う。

2章後半の「地形の成り立ち」については、独立した章(新3章)とする。

内容は、ベッドフォーム、堆積構造、地質に、日本列島の成り立ちも含める。

日本の基盤岩質(知花委員の資料参照)についても記載

新3章については、成瀬委員と横川委員で個別の打ち合わせを行う。

3章+4章:

堤委員が執筆可能か今泉委員より打診

→2つの章とするか、1つとするかを定める。

内容は、今泉委員の資料を参照(土砂生産と土石流)

5章:

ここは生態だけでなく、流域地質と河道形状、その結果としての生態系という内容にする(知花委員の資料を参照)

6章:

沖積河川の土砂収支。内容は以前の通り。担当は東委員

7章:

洪水の話は6章に含め、この章はなくす。

8章:

都市河川の汚染問題。内容は以前の通り。前田委員担当。

9章:

干潟の生態学。土質力学ベースの考え方。佐々委員担当。(佐々委員資料参照)

10章:

河口から海岸での土砂収支と海浜地形。田島委員担当(内容は資料参照)。

11章:

沿岸域での地盤動態。港湾構造物、津波防災。佐々委員担当。

12章:

重力流による深海への土砂供給。成瀬委員担当。

13章以降:

内容については議論せず。

※13章はやめましょうか。

※14章は、松島が原案を作ります。

※15章は、各自、余力がある場合に、原稿を作成することにしましょう。

(学会での講演会などでは、専門家向きのこの辺の説明も必要になると思います。)

4. 研究紹介:知花先生  
今回は時間が無くなってしまったので、次回に回すこととした。
5. その他  
特になし

以上